



▲まちを明るく照らす防犯灯



▲マージャンで交流を深める自治会員



▲自治会の交流拠点である公民館



▲自治会独自の防災訓練でひもの縛り方を伝える自治会長

特集

自治会とは？

問い合わせ 市地域コミュニティ課 ☎62・5017

自治会とは、お住まいの地域において、
住民の皆さん同士のつながりで作られた住民自治組織です

福津市には現在 102 の自治会があり、それぞれの地域がより良い地域づくりを目指しています。

地域で安心して安全に生活できることは当たり前ではなく、

「自分たちの地域は自分たちで」

という思いを持った、地域の皆さんの支え合いによって成り立っています。



▲地域住民が協力して行う分別活動



▲市役所や地域からの情報を伝える回覧板



▲通学中の小・中学生の安全を守るみまもり隊



▲自治会独自で取り組んだイルミネーション

自治会の役割

自治会は同じ地域に住む人たちが、お互いの親睦を深めながら、自分たちの住む地域をより良くしていくために自主的な活動を行っている組織です。主に地域全体の課題解決や交流イベント、防犯防災、環境整備などについて協力して取り組んでいます。

また、地域社会のつながりを強め、住民同士のコミュニケーションを促進するために重要な役割を担っています。例えば、季節ごとのイベントや祭り、清掃活動などの実施を通じて、住民同士の交流を深め、地域全体の活気を生み出します。さらに、安全面においても重要な役割を果たしています。防犯パトロールや防災訓練の実施、防犯灯の管理などを通じて、地域全体の安全を確保しています。

自治会は単なる組織というだけでなく、地域社会の一要素として、住民同士で協力し、課題解決や地域コミュニティの活性化に向けて活動していく重要な存在と言えます。

自治会活動 Q&A

Q 自治会には必ず加入しないといけないの？

A 自治会への加入は任意です。しかし、防犯・防災や地域問題の解決などいざというときには、日ごろから自治会を通じて交流を深めることで隣近所や自治会全体での助け合いにつながります。そこで、市では加入をおすすめしています。

Q 自治会費は何に使われているの？

A 防犯灯や公民館の維持管理費用、交流イベントなどお住まいの地域に応じた活動に使われています。

Q 自分の地域の自治会について知りたい、自治会に加入したときは？

A 自治会長にお問い合わせください。自治会長の連絡先が分からない場合は、市地域コミュニティ課にお問い合わせください。

麻雀とボランティア 広がる地域交流の輪

大 和1区自治会では、コロナ禍で住民の交流が減少したため、公民館を活用して新たな活動を始めました。最初は公民館開放の日にトランプや麻雀などで親睦を深めました。その後は麻雀が人気を博し、毎週火曜日には定期的な集まりがスタートしました。初心者でも楽しむことができ、リラックスした雰囲気での交流が広がっています。しかし、若い人や男性の参加員には課題があり、男性は自発的に参加しにくい傾向が見られます。私はこの課題に対処するためのアイデアを模索しています。例えば、男性向けの特別なイベントや競技大会を開催することで、参加意欲を高められないかと考えています。



大和1区自治会長 瓜生隆弘さん

地域の清掃活動や子ども向けのワークショップなどが行われ、地域社会において新たなつながりが生まれています。こうした取り組みによって、自治会は住民同士のつながりを大切にし、地域コミュニティ全体の活性化を促進しています。今後も麻雀や気軽なおしゃべりの場として、公民館を利用し、さまざまな世代が参加しやすい環境づくりに努めていきたいです。年齢や性別など分け隔てなく、共に地域を美しく、楽しく、安全なまちづくりのために一人でも多くのかたが協力していただける社会になればいいなと思います。

広報などから知って始める自治会活動

自 治会に加入し、体育委員を務めたことがきっかけで、広報作りなどさまざまな活動に協力するようになりました。当時は、地域の子どもの運動会やマラソン大会などで、テント張りや選手のサポートを担当しました。

そのためには、まずは住んでいる自治会について知っていただきたいと思っています。私たちが、安心して暮らせる地域である裏には、誰かが緑の下を力持ちとなって、支えていることを知ってもらい、共に協力してまちづくりをしていければいいなと思います。一度、地域の広報紙などに目を向けて、どんな活動やイベントが行われているか知ってみたいかがでしょうか。

あけぼの区自治会員 信田由美子さん



私は自治会の活動をもっと地域の皆さんに知ってもらいたいと思います。多くの自治会で高齢化や担い手不足の問題が発生し、若い世代と高齢の世代とのコミュニケーション

自治会での活動や思いなどを 自治会長と会員のかたに聞きました

伝統と革新の調和を目指す地域づくりバランス

自 治会長としての主な仕事は「明るく住みよいまちづくり」のローガンのもと、自治会の統括、連合会との連携、住民親睦の促進をすることです。さらに、まちづくりの一環として、イベント企画や会員の協力を呼び掛け、地域全体の安全や美化活動にも積極的に取り組んでいます。特に、コロナ禍の自粛が明けた後に地域行事を再開できたことは大きな喜びと達成感がありました。

また、住民の要望や困りごとに対して、積極的に耳を傾け、解決に向けて動いていきたいです。地域社会においてさまざまな声やニーズがある中で、それらに対応できるような柔軟な運営が、住民の信頼を築く基盤になると思います。地域の文化や人間関係を尊重しつつ、新しいアイデアや手法を導入していくことで、より多くの住民が参加しやすい環境を築けるかもしれません。



原町1区自治会長 武田千代子さん

自治会の課題として、担い手不足や人材育成、役員の負担の偏りが懸念されます。住民の意識啓発と積極的な情報提供が求められていて、特に若い世代の加入・参加促進が重要なポイントだと思います。デジタル化は若い世代にとって受け入れやすいものではあります。地域との関係やコミュニケーションの面では課題があります。古い手法と新しい手法のバランスを取りながら、地域のニーズや住民の特性に合わせ

地域のつながりを育む自治会の仕組みづくり

自 治会では年間を通じてさまざまなイベントがあり、餅つき大会やそうめん流しなどの楽しいレクリエーションも開催されています。私は月1回のごみの分別や清掃活動などイベントを中心に活動に参加しています。活動を通じて地域のかたがたとの交流が増え、特に自治会主催の清掃活動の後に開催してくださったイベントで、新しいつながりや付き合いが生まれ、話したりする中で地域の情報や歴史に触れ、上の世代のかたがたと関わる機会ができました。

これに対しては、若い世代が参加しやすくなるような仕組みづくりが必要です。負担が偏らない持続可能な形で活動が求められていると思います。一見面倒に思える地域のつながりにも、楽しさや面白さを感じられる要素があり、負担を分け合いつつ、楽しめる要素を増やしていけると、参加したい人も増えるのではないのでしょうか。地域ごとに状況が異なるため、さまざまなアプローチが検討・実践されると良いなと思います。

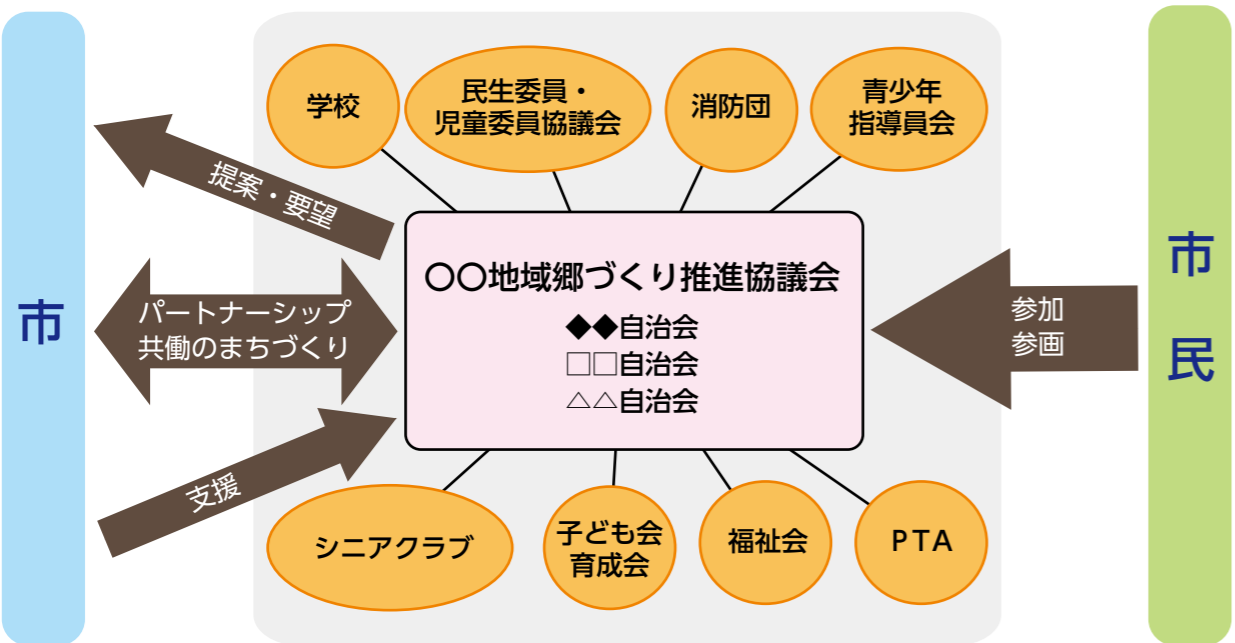


末広区自治会員 中川孝晃さん

また自治会の子ども会では、子どもがいる家族とも仲良くなるなど、世代を超えた交流が広がり、地域のつながりが深まりました。地域に顔を知られているかたがいるだけで、子どもの安全にもつながり、親としても安心して生活ができます。しかし、自治会活動と、現役世代の忙しい生活の調和は難しい課題だと思います。また、

郷づくり推進協議会と自治会の関係

郷づくりとは「自分たちの地域は自分たちで育てる」という考えのもと、地域に住んでいる皆さんが中心となって取り組む地域づくり活動のことです。郷づくり推進協議会は、おおむね小学校区単位で8つに分けた地域に、自治会を中心に設立した組織です。地域ごとに各種団体などと協力・連携して地域内の意見や課題を幅広く収集し、地域課題に取り組んだり、複数の自治会での取り組みなどに対し、地域内の連携を図ったりする役割を担っています。



今後の自治会活動に必要な視点は、次の2つだと思います。1つ目は「負担をいかに軽減するか」という視点です。担い手が不足する中で「これまで通り」を続けることは難しく、本当に必要なことを、できるだけ楽にやっていくべきでしょう。具体的には、行事・活動や会議の際に次の4つのパターンを通じて、負担を軽減することが重要だと思います。

- ①「重ねる」同時開催・併催する
- ②「間引く」隔年開催にするなど開催・実施の間隔を長くする
- ③「一緒にやる」共催・共有する
- ④「やめる」

例えば、地域の運動会において「応急担架リレー」で、昼食の「炊き出し」も採点して種目にするなど運動会に防災訓練の要素を織り込むというのが「重ねる」「一緒にやる」の具体例です。

2つ目は「ちょっととした工夫を行い、楽しみながら活動をする」という視点です。「しんどいから、

今後の自治会活動に必要な視点



福津市共働推進会議会長 嶋田暁文 (九州大学大学院法学研究院 教授)

新しい人に入ってきてほしい」といった声をよく耳にしますが、大変なところにわざわざ入ろうと思う人はなかなかいません。「しんどいから」というメッセージ自体が新たな担い手を遠ざけてしまふのです。

もちろん、自治会活動は楽しいことばかりではありませんが、例えば、清掃作業にゲーム(競技)の要素を入れ込むなど、ちょっとした「遊び」を加えると、そこに楽しさが出てきたりします。こういった工夫を通じて、自分たち自身が楽しく活動することこそが、担い手確保の一番の近道となることを心に留めていただければ幸いです。

次世代の自治会を目指し 東福岡12区設立準備中

東福岡12区とは

東福岡12区は神興郷づくり地域に属する、東福岡の北側に新たに開発された住宅地で、約40世帯で構成されています。大多数が現役世代のかたがたであり、自治会設立に向けて新たな風が吹き込みそうです。



▲自治会設立準備委員会で話し合う委員の皆さん

日中は仕事をしている若い人が多いから、自治会の業務負担は減らしたいね

役員の仕事を分散して、一人当たりの業務負担を減らすのはどう？

SNSを活用して連絡したり、回覧板をオンライン化したりするのはどう？

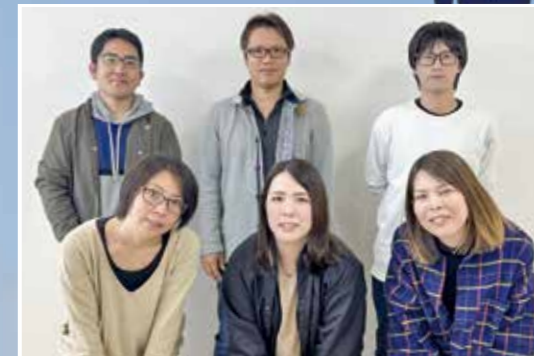
会議もオンライン化したり、皆さんが参加しやすい時間帯に行うといいね

時代や住民のニーズに合わせて活動内容を考えていきたいね

設立するからには、入ってよかったと思ってもらえる自治会にしたいね



自治会について知ってもらうためにパンフレットを作成しました



▲自治会設立準備委員の皆さん

地域共生のために自治会設立への参加とその展望

私たちが自治会設立準備委員になった理由は、自治会の立ち上げに関わることがなかなか経験できることではなく、興味を持ったことや、そもそも自治会の本質を知らなかったのを知りたい気持ちから参加しました。自治会設立に向けて委員全員で話し合いながら、自治会の規約、役職、活動内容などを一から考え、総会に向けて準備しています。

東福岡12区の多くは若い世代で構成されているので、いかに役員や会員の負担を減らし、多忙な日々でも参加できるように、どのような仕組みづくりをするかが自治会運営についての焦点だと思っています。具体的にはSNSを活用したり、会議をオンラインにしたりと効率的な自治会活動を実施していきたいと考えています。また、住民のさまざまな意見を取り入れながら活動できる「風通しのよい自治会」を目指していきたいです。

自らが住む地域をより良い環境にするために「自分たちの地域は自分たちで」という意識を持っていただき、自発的に参加していただけるかたが増えればいいと思います。